

令和3年(2021年)1月12日  
山口県病虫害防除所

1 害虫名 : ミツユビナミハダニ (*Tetranychus evansi* Baker & Pritchard)

2 発生作物名 : トマト(施設)

3 特殊報の内容 新発生

4 発生経過

(1) 確認年月日 : 令和2年9月8日

(2) 発生地域 : 宇部市

(3) 確認の経緯

令和2年9月8日、宇部市の施設栽培トマトにおいてハダニ類の多発を確認した。神戸植物防疫所に同定を依頼したところ、山口県内では作物被害報告のないミツユビナミハダニ (*Tetranychus evansi*) であることが明らかになった。

(4) 他県での発生状況

平成13年に大阪府においてイヌホオズキで初めて報告された後、現在までに栃木県、群馬県、東京都、静岡県、三重県、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、広島県、愛媛県、高知県、福岡県、長崎県、鹿児島県、沖縄県において、ナス、トマト、ミニトマト、ばれいしょおよびナス科雑草から記録されている。

5 本虫の特徴

(1) 被害の状況

他のハダニ類と同様、葉裏に寄生して食害し(図1)、葉を白化させる(図2)。

(2) 形態

雌成虫は体長0.6mm程度でくすんだ淡橙色～濃橙色(図4)、雄成虫は体長0.5mm程度で白～淡橙色。雌雄とも橙色を示すことが特徴だが似た体色の種がいるため、体色で同定することは困難で、雄交尾器の確認が必要である。

(3) 生態

寄主としてナス科植物、特にナス属を好む。ナス、トマト、ミニトマト、ばれいしょなどの農作物の他、農地周辺に生えるイヌホオズキ、ワルナスビなどのナス属植物からも記録がある。本種は集合しやすい性質があるため、白化が著しく進み枯死に至ることもある。休眠性はなく、寒冷地で越冬はできないが、関東以西の太平洋沿岸地域、九州沖縄地方では越冬可能と考えられている。

6 防除対策

野菜類およびトマトのハダニ類に対して登録のある薬剤により、防除を行う。

ハダニ類の防除に用いられる天敵資材のミヤコカブリダニやチリカブリダニは、本種を捕食した場合には増殖力が著しく低下するため、防除効果は期待できない。

ほ場周辺やほ場内のイヌホオズキやワルナスビ等のナス科植物は、ミツユビナミハダニの発生源となるので除草に努める。



図1 葉裏の加害状況



図2 白化した被害葉



図3 ハダニが多発して網を張った被害葉



図4 雌成虫

【参考文献】

- 江原昭三・後藤哲雄(2009) ミツユビナミハダニ. 原色植物ダニ検索図鑑, 全国農村教育協会, 146-147.
- 後藤哲雄(2010) 植物防疫 Vol.64 No.4 49~53.
- 後藤哲雄(2011) インターネット版 日本農業害虫大事典 害虫新情報「ミツユビナミハダニ」
- 後藤哲雄・五箇公一(2012) 地球環境 Vol.17 No.2 175-182.
- 広島県(2020) 令和2年度病虫害発生予察特殊報第3号